


山梨県立文学館

# 30年の記録

山梨県立文学館は、1989（平成元）年11月3日に開館し、  
2019（令和元）年は30周年に当たります。  
開館前後から今日までの出来事を貴重な写真とともにたどります。



そのことばのつづきへ

 山梨県立文学館  
Yamanashi Prefectural Museum of Literature

## ごあいさつ

平成二十七年の宮中歌会始のお題「本」の預選歌に「二人して荷解き終へた新居には同じ二冊が並ぶ本棚」がありました。作者の独身時代を支えた一冊。偶然同じそれが新婚家庭の本棚に並んだときの感激が見えてくる場面ですね。本は、そして文学は大切なこころの糧です。

甲斐の国は豊かな文学の土壌、その成果を核にしながら文学全般の魅力を広くお伝えする作業を重ね、三十年となりました。支えてくださった山梨県及び県民の皆さんへの感謝を新たにし、文学の奥深さを生かすべく、さらに遠く歩んで参ります。

山梨県立文学館開館二十周年の節目に

文芸の山なみをなお拓ひらきゆく水澄む甲斐の深空みそらのもとに

山梨県立文学館館長 三枝 昂之



山梨県立文学館建設懇話会 1988(昭和63)年6月27日 古名屋別館



#### 芥川龍之介資料を受贈・購入

1984(昭和59)年度に山梨市出身の古書店主岩森亀一氏(前列右から2人目)より芥川龍之介資料を受贈・購入した。幼少期から晩年までを網羅したコレクションは、俳人飯田蛇笏資料とともに収蔵資料の大きな柱となった。

山梨の文学資料の保存・活用、文学館建設の要望、気運をうけて、山梨県は一九八三(昭和五十八)年十一月に文学館構想策定懇話会(委員十七名)、一九八七(昭和六十二年)一月に文学館建設懇話会(委員十六名)を設置、文学館の建設に向けて動き出した。



### 文学講演会「小説と私」

1986 (昭和61) 年2月1日 講師: 吉村昭  
山梨県県民会館

この頃、開館に先立って普及啓発のため、県内各地で文学者を招いての講演会、シンポジウムなどを実施した。



正面から見た建設中の様子。1987 (昭和62) 年11月2日、起工式を行い建設に着手、1989 (平成元) 年5月18日に完成した。



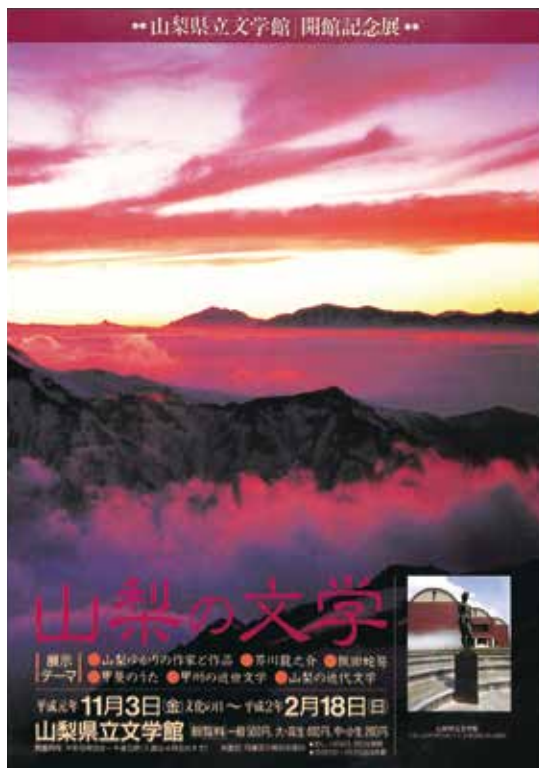
文学館の開館と同時に、隣接する県立美術館を含む敷地を「芸術の森公園」として整備した。山梨における文学の拠点として一歩を踏み出した。

**山梨県立文学館開館及び芸術の森公園竣工記念式典 1989(平成元)年11月2日**

神事に続いて行われたテープカットの様子。茶室素心菴など公園施設を巡覧した後、文学館講堂で記念式典が行われた。



展示室の様子。記念式典終了後に2階展示室の開館記念展「山梨の文学」を公開、翌日の11月3日文化の日から一般公開した。



### 開館記念展「山梨の文学」

1989 (平成元) 年11月3日

～1990年2月18日

すべての展示室を使用し、古典から現代文学まで、本県ゆかりの文学者と作品をとりあげた。終了後はこの展示をベースに常設展を開設した。



### 1990 (平成2) 年8月11日 観覧者が10万人を突破

千葉県館山市の親子に飯田蛇笏の色紙など記念品が手渡された。この時までに開館以来、1日平均424人が訪れた。



企画展「生誕百年記念 芥川龍之介展」

1991 (平成3) 年10月5日~12月1日

館蔵の芥川コレクションに加え、借用資料とともに、芥川の人と文学の全体像に迫る企画展を開催。



企画展「飯田蛇笏展 没後30年」

1992 (平成4) 年10月3日~12月6日

蛇笏の生涯と作品の魅力、主宰した雑誌「雲母」の人々を紹介した展覧会。



第1回やまなし文学賞

1992 (平成4) 年4月、樋口一葉の生誕120年を記念して制定。館に事務局を置く、やまなし文学賞実行委員会が主催。小説と研究・評論の2部門を設け、2019 (令和元) 年に28回を迎えた。

## 「近代文学とミレー」展

—文学と美術の接点を求めて—展

1994（平成6）年12月10日～1995（平成7）年2月19日

隣接する県立美術館との共催展示。「飯田蛇笏と「雲母」」「夏目漱石と芥川龍之介」「白樺」と近代美術」の3つの側面から、館蔵資料とともに県立美術館所蔵のミレー「種をまく人」（油彩）、橋口五葉「化粧の女」（木版）などを当館に展示した。



## 企画展「画文交響 飯田蛇笏をめぐる画人たち」

1998（平成10）年4月25日～6月28日

文学館と美術館の共催による企画展。他に共催の展覧会として、2010（平成22）年7月25日から8月29日まで両館を会場に開催した「くじらぐもからチックタックまで—小学校国語教科書にのった思い出のお話原画展—」がある。



## なまよみの甲斐の文学講座

「北村透谷と現代—蒙軒学舎に触れつつ」

1997（平成9）年11月11日

県立峡南女性センター 講師：野山嘉正

本県出身・ゆかりの文学者とその作品を題材に講師を招き、市町村を巡回するもので、山梨県教育委員会が1984（昭和59）年度から開設。開館後は文学館の事業として、2004（平成16）年度まで行った。





開館十周年を迎え、改めて山梨の文学を概観する企画展を開催した。さらに収集資料の充実と資料公開の態勢を整え、また、様々な普及事業を展開していった。

**やまなし・女性の文学**  
樋口一葉・李良枝・津島佑子・林真理子を軸に

4.10(土) ▶ 6.13(日)

山梨県立文学館

開館10周年記念展Ⅰ

「やまなし・女性の文学－樋口一葉・李良枝・津島佑子・林真理子を軸に－」

1999(平成11)年4月10日~6月13日

本県出身・ゆかりの女性文学者40数名を約800点の資料で紹介。

**山梨の文学-21世紀へ-**

10.3(日) ▶ 1.30(日)

山梨県立文学館

開館10周年記念展Ⅱ「山梨の文学-21世紀へ-」

1999(平成11)年10月3日  
~2000(平成12)1月30日

10年間の資料収集の成果をふまえ、山梨における文学の状況をとらえ直し、再評価の構築を行った。



開館10周年記念文学講演会

馬場あき子「歌のたのしみ」、井上ひさし「一葉と私」 1999(平成11)年11月3日

右から井上ひさし、馬場あき子、紅野敏郎館長。

この年は年間を通して瀬戸内寂聴、津島佑子、林真理子、安岡章太郎を講師に迎え、講演会を行った。

## 山梨県立甲府昭和高等学校文学教室

2001 (平成13) 年11月14日

毎年、授業で芥川龍之介の「羅生門」について事前学習を行った1年生全員が展示を観覧している。この他、県下の学校へ出向いて講義を行う出前授業など学校との連携を推進。



## 子ども朗読教室

2005 (平成17) 年7月30日

講師：河野司

夏休み中に行った小学生対象の朗読教室。



## 書庫見学 2006 (平成18) 年7月28日

普段見ることができない書庫の中を、稀観本や保管方法などを職員が説明しながら案内。2001 (平成13) 年度から実施している。



開館15周年記念

「樋口一葉展 I

われは女なりけるものを - 作品の軌跡 -」

2004 (平成16) 年7月3日~8月22日

開館15周年を記念して、視点を変えた2回の樋口一葉展を開催。24年の生涯をたどりつつ、作品の魅力を紹介。



樋口一葉展 I 関連シンポジウム

「女」にとって文学とは何か

~樋口一葉をめぐる人々~

2004 (平成16) 年8月18日

左から中沢けい、岩橋邦枝、津島佑子、今野寿美、茅野裕城子。



開館15周年記念

「樋口一葉展 II

生き続ける女性作家 - 一葉をめぐる人々 -」

2004 (平成16) 年10月2日~12月5日

肉親・師・友人・評価した人々など、一葉と関わりをもった同時代の人々、さらに歿後の一葉研究や享受に視点をおいて一葉像を浮かび上がらせた。



飯田蛇笏・飯田龍太記念室

二十周年を迎えた二〇〇九(平成二十一年)年度末、常設展示室の改修を行い、二月二日、リニューアルオープンし、これまでの四室構成から五室の構成となった。飯田蛇笏コーナーを拡張し、飯田蛇笏・飯田龍太記念室を新設。記念企画展として「太宰治展 生誕一〇〇年」と「樋口一葉と甲州」を開催した。



企画展「村岡花子展 ことばの虹を架ける ～山梨からアンの世界へ～」  
2014(平成26)年4月12日～6月29日



2014年3月31日から9月27日までNHK連続テレビ小説「花子とアン」が放映されたことで、34,844人が観覧。開館記念展以降最も多くの観覧者数を記録した。



### 特設展「作家のデビュー展」

2017(平成29)年7月15日～8月27日

初日のチケット売り場に並ぶ来館者。人気コミック「文豪ストレイドッグス」とのコラボレーション企画により、多くの若い観覧者が遠方から訪れた。これまでの博学連携をさらにすすめ、幅広い世代の関心に応じていく展示や催しの工夫を図ってきた。



百人一首教室 研修室



**文学者の誕生日にちなんだ  
資料紹介 閲覧室**

来館者が山梨県出身・ゆかりの文学者の著書や雑誌を手にとって閲覧できるコーナー。



2018（平成30）年10月3日  
北杜市長坂放課後子ども教室  
長坂小学校体育館

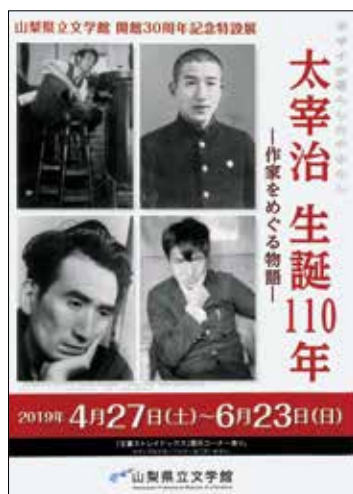
小学生を対象に、地域に関連した文学的なテーマについて学習する。



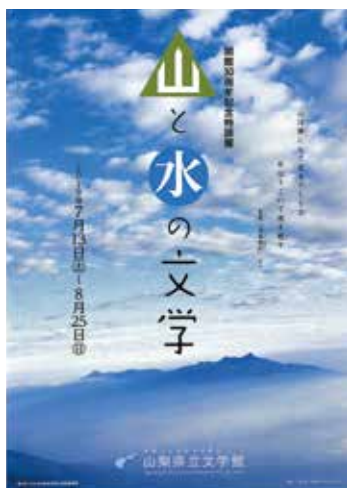
4月20日、文学館のキャッチコピー「そのことばのつづきへ」を発表する三枝昂之館長。



開館30周年記念  
「新収蔵品展 手書きのリズム」  
1月26日～3月24日



開館30周年記念特設展  
「太宰治 生誕110年  
— 作家をめぐる物語 —」  
4月27日～6月23日



開館30周年記念特設展  
「山と水の文学」  
7月13日～8月25日

一月の「新収蔵品展」を皮切りに、キャッチコピーの発表、常設展・特設展・企画展、閲覧室資料紹介、本因坊戦、「そのことばのつづきへ」募集、記念講演会等を実施。今後も文学の魅力を発信し、広く日本文化に親しむ活動を行っていく。



### 第74期本因坊戦第2局

5月22日、23日 素心菴（茶室）

日本文化にふれる事業として開催。開催中は短歌・俳句の合評会や指導基などを実施した。

左 本因坊井山裕太九段、右 河野臨九段。



### オリジナルブックカバーの作成

芸術の森公園の緑に囲まれた文学館をイメージ。



開館30周年記念文学講演会  
林真理子「小説の力を信じて」  
11月10日



開館30周年記念企画展  
「宮沢賢治展 ようこそイーハトーブの世界へ」  
9月21日～11月24日

そのことばのつづきへ



山梨県立文学館

Yamanashi Prefectural Museum of Literature

山梨県立文学館

## 30年の記録

2019(令和元)年9月20日発行

編集・発行 山梨県立文学館

〒400-0065 山梨県甲府市貢川1-5-35

TEL 055-235-8080 FAX 055-226-9032

写真・記事等の無断転載を禁じます。